

神社便り 巖島

なごし 夏越の祭り「ち わ 茅の輪神事」のご案内

昔から我々の祖先は1年を2つに分け、その最後にあたる6月30日と12月31日には「大祓い」（半年の間に犯した罪や穢れを祓い清める神事）を行ってきました
12月31日の「年越しの大祓い」は年末年始の諸行事に吸収されましたが
6月30日の「夏越の大祓い」は現在も各地の神社で行われています

これを「なごしはらえ」「なごしはらえ」「みなづきはらえ」「あらにご はらえ」などといいます

「ナゴシ」という言葉は、神様の心を和らげる「和し」から出たものといわれています
この日神社では、茅を束ねて直径2メートル位の輪を作って神前に取り付けます これを「茅の輪」といい、これを3回くぐると災厄をのがれるといわれています

このとき、「みなづき なごし はら ちとせ いのちの」千歳の命延ぶというなり」と3度唱えながらくぐります

また「備後風土記」によると、^{そみんしょうらい}蘇民将来と^{こたんしょうらい}巨旦将来の兄弟に^{すさのうのみこと}武塔神が一夜の宿を乞うた時に、弟巨旦将来はこれを断りましたが兄蘇民将来は手厚くもてなしました
武塔神はこの弟巨旦将来の無礼を怒り、帰りに村に疫病を起し巨旦将来の一族を滅ぼしてしまいましたが、兄蘇民将来の一族には、腰に茅の輪を付けさせ、この災害から守りました

そしてこの後も、この茅の輪を腰に付ければ蘇民将来の子孫は疫病に罹らないと約束しました この伝承が、今日の「茅の輪」くぐりのもとになったと伝えられています
よって備後地方では「蘇民将来・蘇民将来」と言っ茅の輪をくぐる慣わしもあります

と き 6月30日 16:00~20:00

ところ 巖島神社 正面参道

当日 神社に「人型」と「車型」を用意してあります

お参りいただいた方は、この「人型」と「車型」に、お名前、年齢を書いて「茅の輪」を3回くぐり、境内の忌み火でこの「人型」と「車型」を焚き上げます

費用（祈祷料）は要りません

先着 100名様に「茅の輪」の御守を差し上げます

詳細は 巖島神社 事務所

TEL 0848-44-2022 まで

